

かんしょ「べにまさり」商品性向上のための植え付け節数		
<p>[要約]</p> <p>販売単価の高いAM～AL品、かつ600g袋詰めに適するA2S品～AM品を生産するには挿苗植え付け節数を4節植えとする。</p>		
農業総合センター農業研究所	成果区分	普及（普及）

1. 背景・ねらい

現地の要望課題に対応するため、栽培条件、土壌条件等からかんしょ「べにまさり」の栽培特性を検討し、商品性向上（AM～AL品率・600g袋詰めに適するA2S品～AM品率向上、地中萌芽回避）のための栽培法を開発する。

2. 成果の内容・特徴

1) 植え付け節数が多くなると1株当たりいも数が多くなり、上いも1個重が小さくなる(表1、図2)。しかし、植え付け節数2節植え～5節植えでは収量はほぼ同等、A品率は3節植え～5節植えに差は認められない(表1)。

2) 販売単価の高いAM～AL品の上いも収量・いも数は3節植え～5節植えでほぼ同等である。600g袋詰めに適するA2S品～AM品の上いも収量・いも数は4節植え、5節植えはほぼ同等で、3節植えより増収しかついも数も増加する(図1)。

4節植え、5節植えで収量・いも数に差は認められないが挿苗労力を考慮し4節植えとする。

3) 地中萌芽いもはサイズの大きいいもで発生率が高まる傾向が認められ(図3)、2節植えは2L以上のいも数が多くなる(表1)。このことから地中萌芽いもを抑制するために植え付け節数を多くすることは有効である。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 挿苗方法は直立植えである。
- 2) 「べにまさり」の苗を伸ばすには育苗温度を「ベニアズマ」より高めで管理する。
- 3) 過肥大防止のため施肥窒素は標準(ベニアズマ)以下、栽植密度は350株/a以上とし健苗を用いる。
- 4) 当面の普及対象は「JANAめがたかんしょ部会べにまさり研究会」。

4. 具体的データ

表1 植え付け節数と生育・収量・品質

処理	つる重 (kg/a)	上いも重 (kg/a)	同左 対標比 (%)	いも 1個重 (g)	1株当 いも数 (個)	A品率 (%)	丸品率 (%)	2L以上 いも個数 (個/a)
2節植え	351	380	103	363	2.9	77.6	9.7	258
標) 3節植え	293	369	100	251	4.3	82.3	6.6	114
4節植え	336	394	107	218	5.4	82.9	9.2	97
5節植え	330	380	103	209	5.4	82.2	9.3	90

- 1) 平成16～17年2か年平均
- 2) 平成16年：水戸(表層腐植質黒ボク土)、17年：行方(淡色黒ボク土)
- 3) 施肥量(Kg/a)：水戸 窒素 0.1、リン酸 1.2、カリ 1.0 行方 現地農家慣行
- 4) 栽植密度等：水戸(400株/a)、行方(370株/a)、いずれも7節7葉苗、黒マルチ栽培
- 5) 挿苗期：5月下旬、収穫期：10月上旬

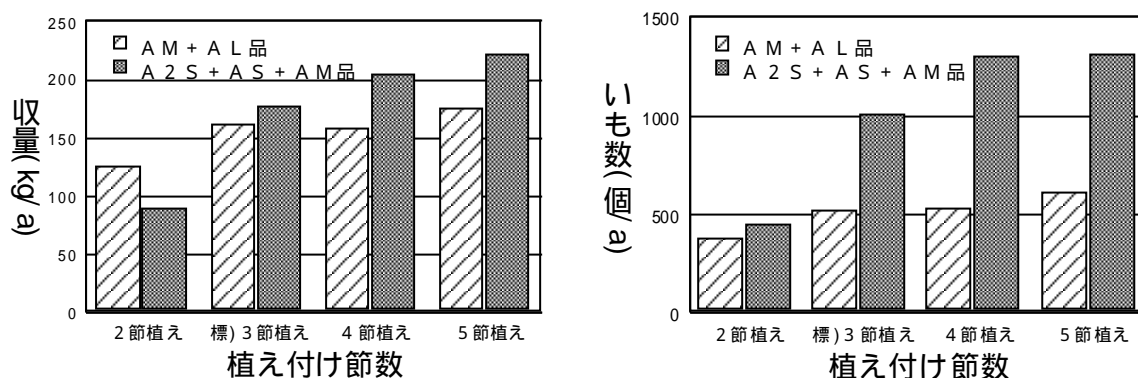


図1 植え付け節数とAM～AL品・A2S品～AM品収量およびいも数

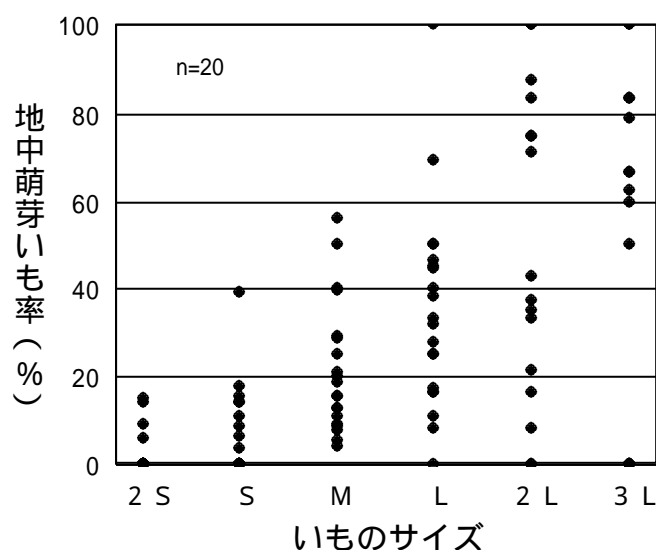


図3 いものサイズと地中萌芽いも率

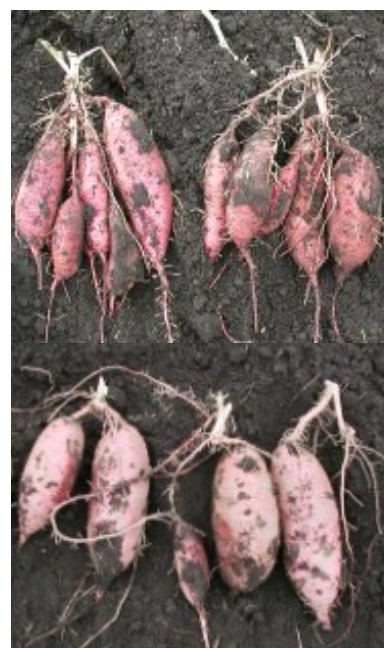


図2 上段：4節植え(2株)
下段：2節植え(3株)

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

- 1) 主要雑穀類の品種選定と栽培法改善試験・平成16年・作物研究室
- 2) ブランドづくりのためのかんしょ「べにまさり」栽培特性の解明と栽培法の確立・平成17～平成19年・作物研究室

